

稲作管理情報 第6号 コシヒカリの活力維持 特集

追肥と水管理による活力維持で、高品質なメルヘン米を収穫 !!

今年のコシヒカリの幼穂形成期(幼穂が2mmになる頃)は、ほ場間差がありますが、近年並の7月12日頃と推測されます。

肥効調節型(一発)肥料において、葉色が薄い場合は、穂ばらみ期までに穂肥を施用し、今後の生育に支障のないような葉色に誘導しましょう。

分施の場合、1回目の穂肥は慎重に(倒伏回避)、2回目は确实(後期栄養凋落防止)に施用してください。

コシヒカリの幼穂形成期と出穂期の予想

田植日	幼穂形成期	出穂期
5月12日	7月12日頃	8月3日頃

穂ばらみ期は、鞘が穂により膨らんだ頃(テッポウ)です。

○一発基肥(メルヘンS、メルヘンロング)の追肥

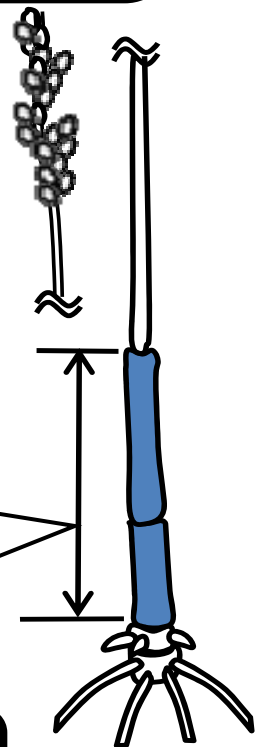
7月27日頃に葉色が下表のように薄い場合は、穂ばらみ期(出穂3日前)までに追肥を施し、稲体の充実を図ります。

○追肥が必要と判断される葉色と、メルヘン3号の施肥量

水田の立地	追肥が必要となる葉色	追肥の量(kg/10アール)
砂壤土や秋落ちする水田	4.2未満	5~7
小矢部川西岸等の肥沃田	4.0未満	

※ただし、草丈が100cm以上、または、下位節が15cm以上ある場合は、倒伏をさけるため追肥は行いません。

葉鞘をはぎ、茎を確認。
 ⇒下位節(第4、5節の2節)の長さの合計が15cm以上の場合は、追肥は行いません。



○分施体系の穂肥

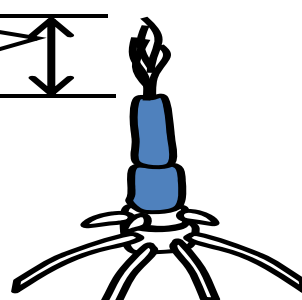
穂肥は幼穂長と草丈を確認して、適切な量を施用します

- 1 穂肥は、幼穂長15mmを確認したら、メルヘン3号を施用します。(5月12日田植えで、1回目穂肥施用時は、7月20日頃と予想されます)

1回目穂肥施用時の生育状況				1回目施肥量	2回目施肥量 (1回目穂肥より7日後)
草丈	株当たり茎数		下位節		
	70株植	60株植			
85cm未満	21本以下	24本以下	14cm未満	10kg/10アール	12~13kg/10アール
85cm程度	23本程度	25本程度	14cm程度	7kg/10アール	
87cm程度	25本超	28本超	15cm以上	施用しない	

- 2 2回目の穂肥後も葉色が薄い場合は、7月31日頃までに、メルヘン3号を追肥します。(施肥量は一発施肥の表を参照してください)

葉鞘をはぎ、幼穂を確認。
 ⇒幼穂が15mmの時期に1回目穂肥を施用します



○ 出穂前～収穫前までの水管理

稲の活力を維持するために、以下の水管理を徹底しましょう。

- ① 幼穂形成期～出穂期まで土壌を湿潤に保つ（＝飽水管理）
- ② 出穂後20日間は、湛水管理（田面を露出させない）
- ③ 収穫5日前までは、間断かん水を励行



穂揃期・傾穂期のカメムシ防除で品質確保!!

○ 粉剤または液剤を用いる場合

- ・ 水稻の生育状況に応じて防除日を設定します
- ・ 1回目と2回目の防除間隔は7日程度とします

粒剤、粉剤、液剤
どれも成分数は1です
(使用薬剤は、昨年産とは異なります)

順番	1回目	2回目
[粉剤]	[キラップ粉剤DL] 4kg/10アール	[スタークル粉剤DL] 3kg/10アール
《液剤》	《キラップフロアブル》75ml/10アール(2000倍)	《スタークル液剤》150ml/10アール(1000倍)
てんたかく	7月20日頃(穂揃期)	7月27日頃(傾穂期)
移植コシヒカリ	8月6日頃(穂揃期)	8月13日頃(傾穂期)

○ 粒剤(キラップ粒剤:3kg/10a)を用いる場合

- ・ 出穂期に水深5cm程度の状態で散布し、7日間湛水を保ちます
- ・ 5月12日植では、8月3日頃が散布適期です。

- 1 田水に溶けた薬剤が、根を通り吸収されるため、3日程度湛水します。土が露出した場合は静かに必要分だけ入水を行います。深水は濃度が薄まり逆効果!
- 2 早生栽培田、中山間地、雑草・牧草地際は粉剤又は液剤防除とします。長期間、効果が持続しますが、吸汁阻害等の忌避効果が主のため、カメムシの飛来量が多い上記の地域での使用は避けて下さい。

○ クサネムの除去

クサネムは収穫前に抜き取り、種子の混入を防ぎましょう。

